

科目名	キャリアデザイン4							年度	2025
英語科目名	Career Design 4							学期	後期
学科・学年	ITスペシャリスト科 2年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	降矢理人		教員の 実務経 験	有	実務経験の職 種	クリニカルエ ンジニア			

【科目の目的】

専門学校の目的は各分野の専門技能を身に付けたスペシャリストを社会に送り出すことである。専門分野の知識やスキルに長けていることはもちろんだが、社会人としての資質も身に付けておく必要がある。本講座では社会人基礎力というキーワードをもとに、求められる人材に近づけるべく、考え方や日々の習慣を内省し、就職へ向けてのアプローチとなる第2歩を踏み出すことが目的である。(2年次共通)

【科目の概要】

キャリア教育学③
ビジネス上での求められる人物像を探求する(新・社会人基礎力をベースに)
成功している企業の経営者たちの言葉や考えをもとに、今の自分との差異を考える
日々の習慣を振り返り、行動を変えるきっかけに繋げる

【到達目標】

本来キャリア教育は、単に就職するためのスキルを教授するだけではなく、社会人としての考え方や社会論を軸に、労働との関わりについて思考を深める学問である。自身と向かい合い将来の働き方を模索し、自分なりの生き方や働き方、さらには社会との関係性について視点を増やし、視野を広げることを目標とする。

フェーズ3では、社会的データや一般概念、有識者の言葉から、社会の考えを知る。そのうえで自分とのギャップを考える。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。欠席は原則認めない。授業に出席するだけでなく、社会人として働くことを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている	レベル2 ふつう	レベル1 要努力
到達目標	将来に向けた具体的なビジョンがあり、自ら取り組み始めている	具体的な将来のビジョンこそないが、目先の学業や生活に興味を持って取り組められる	これからの学業や生活について。これまでの考え方を振り返りながら今後のことを考え始められる

【教科書】

無し/オリジナルの投影資料

【参考資料】

必要に応じてその都度トピックスの話題や資料

【成績の評価方法・評価基準】

課題レポート 60%
出席 30%
平常点(発言等) 10%

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	キャリアデザイン4							年度	2025
英語表記	Career Design 4							学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル				評価	自己
								方法	評価
			1. 過去の振り返り	これまでの自分(自分の対話)					

1	なりたい私	「なりたい私」をえがく	1	夢はありますか	
			2	ワーク	夢をみる (なりたい私)
2	目的が見つかりと”目標”が決まる (1)	“目的”と“目標”の違いを知る	1	目的を描く	強く想う。ということ バックキャスト的思考を知る
3	目的が見つかりと”目標”が決まる (2)	目的に意味を付ける	1	ワーク (言語化)	目的 (夢) に意味を付ける
			2	ワーク (可視化)	目的のイメージを描く
			3		
4	目的が見つかりと”目標”が決まる (3)	目標が決める	1	行動指針を決める	コンパスとタイム付登山マップを持つ
			2	“今の私”を武器にする	今の私を信じて進む
5	ミッションステートメント (1)	ミッションステートメントを作る (1)	1	ワーク	これまでの習慣を見直す
			2	ワーク	ミッションステートメント① (30点)
6	ミッションステートメント (2)	ブレない自分を作る	1		私の励みになるものをつくる
			ワーク		いっぱいつくる
					自分のモラルに沿う
					ミッションステートメント② (60点)
7	PDCA (1)	プランニングの重要性を知る	1	実行プロセス	夢の実現に向けて考え始める PDCAのメカニズムを知る
			2	止まってしまう原因	ボトルネックとなる要素を知る
8	PDCA (2)	問題と課題の違いを考える	1	問題発見	問題を発見することから始まる
			2	計画の重要性	計画へのフェーズ
			3	PDCAの分解	Pを作るプロセス
9	PDCA (3)	ゴール設定	1	KGIと定量化	期日と定量化
			2	ワーク	
10	PDCA (4)	問題発見	1	KGIとの差異	ギャップを定量化する
			2	ワーク	
11	PDCA (5)	課題策定	1	課題策定	ギャップを埋めるための課題策定
			2	ワーク	
12	PDCA (6)	課題の優先化	1	判断基準	効果と難易度、優先化表の作成
			2	ワーク	
13	PDCA (7)	課題の数値化	1	KPI	目指すべき結果を作る
			2	ワーク	
14	PDCA (5)	解決策策定	1	D0からTODOへ	方向性とやることを決める
			2	ワーク	
15	PDCA (6)	解決策の優先化	1	判断基準	効果と難易度のマトリックス
		計画の可視化	2	ワーク	

		3	可視化	行動ファーストを試みる	
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他					
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった					
備考 等					